



目次

巻頭言： 本を通して人を知り，人を通して本を知る —さらなる学生参画・学生協働—	矢部 敏昭	1
私の選んだこの一冊		
「法服の王国」黒木 亮著	伊藤 敏幸	3
「姫路・岡山・鳥取に流された浦上キリシタン」川俣 俊二著	森本 稔	4
読書ラリー2015		5
参加報告「大学図書館で楽しく身につく使える英語」	山根 智子	8
” 「機関リポジトリの近未来」	中谷 昇	9
鳥取大学鳥取市役所同窓会からの寄付金による購入図書		9
2016年電子ジャーナル・文献データベースについて		11
トピックス		11

巻 頭 言

本を通して人を知り，人を通して本を知る  
—さらなる学生参画・学生協働—

矢部 敏昭

1. 大学評価フォーラムからのメッセージ

“高等教育という学びの場の主人公は、学習の主体である学生です。”で始まる平成25年7月に開かれた「高等教育質保証と学生の役割」のフォーラムの内容は、本学学生諸君に是非知ってもらいたいとともに、行動に移してほしいと期待するものである。

学生参画の在り方は4つに分類できるとし、学生によるフィードバック提供による「情

報提供者としての学生」、問題解決の議論を行う「行為者としての学生」、学習経験を通じた「専門家としての学生」、そして質保証における「パートナーとしての学生」である。

例えば、概念の変化としては、1)学習は望ましい教育パラダイムとして教授にとつ



てかわること。2) 学生は知識の創造者としてとらえること、等々。また、学生参画の強みとメリットとして、3) 学生は、学習や学生の問題についての専門知識を代表すること。4) 学生参画は、様々な付加価値を生み出すこと。5) 質保証プロセスの向上が期待できること。等々である。特に、後者の4)の視点は、学習の質を評価する過程で基本的な役割を担い、5)の視点は学生の視点が新しい解決の糸口として期待できるのである。

そして、学生は大学に新しいアイデア、エネルギー、情熱、創造性をもたらし、かつ、学生参画は結果ではなくプロセスである、として締めくくられている。

本学附属図書館は、上述したフォーラムからのメッセージにはまだまだ至らないが、昨年度後期の事業だけをみても、1) 学生選書ワーキンググループの活動、2) ブックハンティング、3) ビブリオバトル、4) 読書ラリーと、学生参画による4つの事業を展開することができた。新事業であった4) 読書ラリーは、図書館員によるアイデアと企画ではあったが、全学部から自主的に構成された学生協働の19名のメンバーも主体的・積極的に関わってくれたことは好ましく、またうれしいことである。

## 2. 読書ラリーを振り返って

読書ラリー2015は、「読書のカーあなたの世界を広げましょう」をサブテーマに、学生諸君を対象に、新書、選書、ノンフィクションなどの本を読んでコメントを書く“読書マラソン”である。

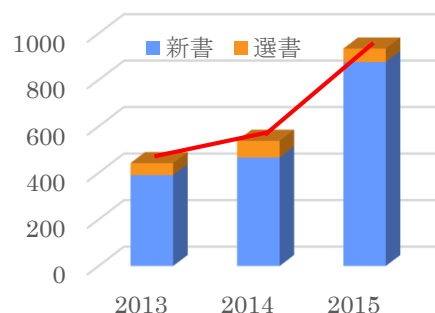
平成27年10月1日から平成28年1月15日までの期間に、前述した種類の本を5冊読み、200字から300字程度のコメントカードを提出するものであった。エントリー数67名の学生・院生により、69枚のコ

メントが本学中央図書館に掲示された。

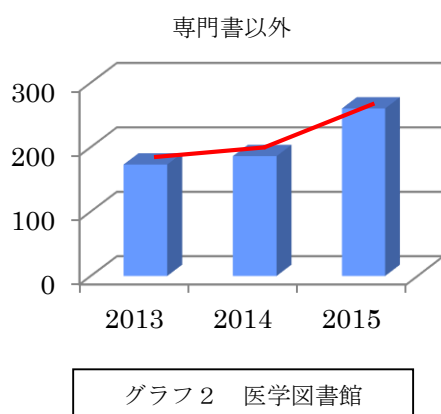
図書館長賞に輝いた書名『まじめの罨』は、“まじめ、努力家、素直”のもつ言葉の意味を再考し、知的怠け者であった自分を見つめ直し、物事を疑問視して考える自分へのきっかけとなり、今後の学生生活に活かすコメントであった。また、学生選考賞の書名『ぐっすり眠れる3つの習慣』は、人間が100年生きてその睡眠に費やす時間はおよそ25年から35年程度であることを知り、睡眠に関する科学的メカニズムとともに、良い睡眠をとるための習慣を実践に移すコメントであった。

学生選考賞は、その他に書名のみを記せば、『物語もつと深読み教室』、『サンタクロースの大旅行』、『中南海』である。どのコメントからも共通して読み取れることは、読書を通して自分と対峙し、自らを思想の世界に身を置く姿が想像された点であるように思われた。

そして、本事業「読書ラリー」の成果は、以下に示す数字にも表れている。昨年、一昨年の同期間と比較して、学生諸君が借りた本の冊数は1.5倍から2倍に増えている。このことは、企画の段階では予想し得なかったうれしい成果(グラフ1は中央図書館、グラフ2は医学図書館の貸し出し冊数)であった。



グラフ1 中央図書館



参考資料1 平成25年度大学評価フォーラム、「学生からのまなざし」高等教育質保証と学生の役割, 2013.

参考資料2 ENQA (European Association for Quality Assurance in Higher Education), 欧州高等教育質保証協会.

(やべ としあき :  
副学長 (附属図書館長、IT担当)、  
地域学部教授)

## 私の選んだこの一冊

### 黒木 亮『法服の王国』(岩波書店)

伊藤 敏幸

黒木 亮著「法服の王国」(上・下) (岩波現代文庫/文芸274) を紹介したい。先月、有機合成化学協会の理事会のために上京した際に浜松町の書店で購入し、たちまち魅了されて2日で上・下巻を読破した。

主人公は、一人が東大法学部出身で司法官僚として歩み最高裁長官にのぼりつめる津崎守、あと一人は中央大学法学部出身で地方裁判所を転々として最後は沖縄の家庭裁判所長で退官を迎える村木健吾という二人の裁判官である。通常の小説であれば津崎をエリートの悪役として描きそうであるがそうではない。津崎の境遇は単純なエリートのそれではなく、津崎も村木もそれぞれの立場で真摯に裁判官人生を歩んでいく姿が描かれており、脇役にも魅力的な人物が沢山登場する。ただし、本書は単なる裁判官物語ではない。横糸に原発訴訟問題や青法協問題などが織り込まれて物語が展開し、梶村太一氏の書評を読むと、本書は実在の人物をモデルに盛り込み丁寧な調査を

下敷きにした半ノンフィクション小説であることがわかる。なかでも、横糸のひとつである原発問題には大いに考えさせられた。

本書でも裁判例がでてくるが、高速増殖炉・文殊という、通常原発とは較べものにならない大問題を抱える施設が存在する。文殊の熱媒体として使われている金属ナトリウムは、水の惑星である地球上で使うにはあまりに危険すぎる物質である。このため欧米諸国は設計段階で早々と開発を断念したが、愚かにもひとり我が国のみ本当に建設してしまい、案じたとおり事故を起こして運転すらできないでいるにもかかわらず、いまだに執着している。日本の未来のためにはこの予算を科研費や教育費にまわすべきである。文殊の建設を承認した責任者は金属ナトリウムを扱った経験がない方であることは間違いなく、その無責任さには呆れる。

本書で、我が国の原発の最大の問題点

は、事故の可能性を少なめに見積もり設計していること、たとえ問題が明らかになってきても「動き出してしまったこと」を止められない行政体質にあることが指摘されていて、宜なるかなと感じた。この本の最後は、退官後の村木がテレビニュースで東日本大震災の福島原発の事故を知るところで終わっている。著者の黒木氏は、あれだけの大事故を経験したにもかかわらず、またぞろ「事故はなかったことにしよう」と

している「天を恐れない」我が国の電力行政に警鐘を鳴らしているのであろう。

(いとう としゆき :  
工学研究科教授 附属図書館委員)

図書館所蔵  
中央図書館 新書・文庫コーナー  
請求記号 : 081 : IGB : 273 274

### 私の選んだこの一冊

## 三俣 俊二『姫路・岡山・鳥取に流された浦上キリシタン』 (聖母の騎士社)

森本 稔

表題の本を手にとったのは若桜通り沿いの定有堂書店だったと記憶している。私自身、キリスト教徒でも仏教徒でもないのだが、神社建築や仏像は昔から好きで、宗教そのものには興味があった。中でも小学校の社会科で習った「踏絵」や「隠れキリシタン」という言葉が妙に心に残っていた。自分には無い「神を一途に信じる心」に惹かれたのかもしれない。ただ、遠く九州長崎での話と勝手に思い込んでいて、身近な出来事とは思ってもしなかった。そんなところに表題の本を見つけ、鳥取という身近なところでもキリシタンの弾圧があったことを知り、小学生の頃に懐いたカクレキリシタン(潜伏キリシタン)への畏敬の念が蘇った。

明治2年12月、長崎浦上の老若男女3千人ものキリシタンが捕らわれ、西国20藩にそれぞれ流配された。そのうち163名が鳥取藩に連行された。たかだか150年前の出来事である。キリシタンへの弾圧なんて江戸時

代初期の事とこれまた勝手に思っていたのだが、明治政府になってからも続いていたとは……。鳥取藩に連れ来られた163名のうち30名程が椿谷の牢屋に、残り130余名は丸山の旧善久寺に幽閉された。劣悪な環境下、水も食事もろくに与えられず、役人より厳しく改宗を迫られたようである。ある者は環境に耐えきれず、ある者は家族を守るために心ならずも改宗を申し出た。一方、信仰を曲げず、命を落としたものも多数あった。この様なキリシタンへの扱いに対し、諸外国の厳しい抗議を受けた明治政府は、明治6年、260年にわたる禁教を解いた。それに伴い諸藩に流配されたキリシタンは故郷浦上に戻ることが許された。鳥取藩に流配された163名のうち浦上に帰れたのは118名。つまり45名もの命が奪われた。この数字は他藩に比べても高いものであり、その過酷さを物語る。

先日、物語の舞台を訪ねた。善久寺は現在

では荒木又右衛門で有名な玄忠寺の隣に移転しているが、当時は渡辺美術館の裏手、城北体育館に隣接する辺りにあったようである。記念碑のようなものも見当たらず、使われていないのかテニスコートと弓道場、墓地が荒れたままであった。もう一方の舞台、椿谷の牢屋跡は樗谿公園の少し南、立川の弘福寺に隣接する墓地を少し登ったところにある。谷筋を削って平地にした様なところに「浦上キリシタン幽閉の地」の碑が立っ

ていた。鬱蒼とした木々の間から駅南辺りが見渡せる。幽閉されたキリシタンたちは何を思ってこの景色を見ていたのだろうか。

(もりもと みのる :  
生命機能支援研究センター准教授  
附属図書館委員)

○図書館所蔵  
中央図書館開架 請求記号：192.1：Him

## 読書ラリー2015



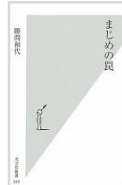
読書ラリーコメント賞の表彰式を開催しました。



附属図書館で初めての企画として「読書ラリー」を実施しました。10月1日から1月15日の期間に、新書、選書等を読み、本のコメントを提出してもらい、総数69枚のコメントが集まりました。

医学図書館では平成28年1月26日（火）に、中央図書館では2月3日（水）に読書ラリーコメント賞の表彰式を開催しました。受賞者が集まり、医学図書館長、附属図書館長からそれぞれ賞状と賞品の目録を受け取りました。各賞は下記のとおりです。

附属図書館長賞	『まじめの畏』 勝間和代著	農学部4年
医学図書館長賞	『命の授業』 腰塚勇人著	医学部1年
	『ぐっすり眠れる3つの習慣』 田中秀樹著	農学部2年
中央図書館学生選考賞	『物語もっと深読み教室』 宮川健郎著	工学部4年
	『サンタクロースの大旅行』 葛野浩昭著	地域学部1年
	『中南海：知られざる中国の中枢』 稲垣清著	地域学研究科1年
医学図書館学生選考賞	『世界は分けてもわからない』 福岡伸一著	医学部5年
	『脳のなかの天使』 V.S.ラマチャンドラン著	医学部3年



読書ラリー コメントカード

書名: はじめの嵐

資料ID: 0011243276

「はじめ、怒か家、素直」。この言葉と言われたも  
 もう私はほめ言葉だと受け取れなくなりました。  
 ました。なぜなら、この言葉と言われた時の私の行動  
 を振り返ると、全くほめられたものではないと気が  
 いたからです。例えば「実直」がどうも、たが早く結果を  
 出したという言葉を、利己の意味を考えずに受けました。  
 マニュアル通りにはせよ結果が出て、認められます。楽な仕事は、  
 どのくらいか結果が出ないとき、頭は真白で途方に暮れ、何  
 何と変えるべきか見当もつかないのです。なぜか？それはこの本  
 口、「知的怠り者」で私が過ごしてきたからだと気づく。はじめに  
 何も考えずに仕事をこなして10年が過ぎた結果、よく実直も  
 過ぎず、この仕事は何の生産性もない人間になってしまっ  
 ました。これからは不器用に物事を臨み、考え、実行し、  
 と信じてもらいました。この仕事は何に役立っているか

農 学部/研究科 / 年 / 冊目

ペンネーム: 一紗 エントリーNo.: (C024)

所蔵情報はこちら↓をご覧ください。



<http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BB07059749>



読書ラリー コメントカード

書名: 命の授業

資料ID: 0210121471

まったく動けなくても、「花のように、  
 生きることが出来るかもしれない」  
 「一生、寝たきり」と宣告され、死ぬことばかり  
 考えていた筆者。しかし、「人はねえ」ということ  
 気づきました。今の状況を受け入れて、いつも  
 笑顔でいると決めました。そして、どんなことにも  
 「ありがとう」と言うことと決めました。絶望の底に  
 いた筆者が人の応援と、感謝の心により、  
 復活と運ける奇跡の実話です。

医 学部/研究科 / 年 / 3 冊目

ペンネーム: choko\* エントリーNo.: M019

所蔵情報はこちら↓をご覧ください。



<http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BB02356113>



読書ラリー コメントカード

書名: ぐっすり眠れる3つの習慣

資料ID: 0011407715

人が100年間生きるとして、そのうちどれだけの期間を睡眠に費やしているのでしょうか? 答えは25~35年程度だそうです。普段、私は睡眠というものをあまり意識せずに生きてきましたが、この数字を見て驚きました。また、睡眠不足は日中の眠気はもちろん、肥満や生活習慣病以外に対人関係の悪化までも引き起こしてしまうそうです。この本では、科学的に睡眠のメカニズムを解説し、良い睡眠をとるための習慣が詳しく紹介されています。まずはその中の出来そうなこと、3つ程度から実践してみることをお勧めします。

農 学部/研究科 2 年 1 冊目

ペンネーム: ザルゴドン エントリーNo.: C011

所蔵情報はこちら↓をご覧ください。



http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BA8602196X



読書ラリー コメントカード

書名: 物語もつと深読み教室

資料ID: 0011411386

深読みという言葉は、あまりいい意味で使わない言葉かも知れない。言われた言葉を深読みしすぎる、というように、裏も読みとが、察した見方のように、新しいな意味で使われることが多いためかも知れない。でも深読みは楽しい。正解は無くても、自分が面白い。文章を通して作者と対話することは、自分と対話することだと思ふ。深読みとは深く自分と対峙することなのだ。まこと。

工 学部/研究科 3 年 2 冊目

ペンネーム: おに エントリーNo.: C032

所蔵情報はこちら↓をご覧ください。



http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BB12016767



読書ラリー コメントカード

書名: サンタクロースの大旅行

資料ID: 0050207521

サンタさんにはどうして小さい子と悪い子が分かるのか、小こに3に点、なこにありまぬか? 彼は5に点、とこに、いい子が分かる能力と同じようなサンタの要素があり、プレゼントを運ぶに、トナカイと相棒を、赤い服を着ている。これはサンタが経てきた歴史を表しているんだ。サンタの起源は、北極星はトルコ、赤い服を着るのはアフリカの農家の象徴です。でも、彼は5が今サンタクロースでイメージするのは、フィンランドなどの北極地帯ですね。一晩で世界中にプレゼントを配るくらいなので、歴史も世界中にあり、クリスマスが来る前に、小こに3のサンタに関する疑問を解決してあげよう。

地域 学部/研究科 1 年 2 冊目

ペンネーム: ネッシー エントリーNo.: C018

所蔵情報はこちら↓をご覧ください。



http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BA38545063



読書ラリー コメントカード

書名: 中南海

資料ID: 0011500113

日本では、永日町や首相官邸がある。また、アメリカにはホワイトハウスがあり、ロシアにはクレムリンがある。並びに、中国では、「中南海」がある。「中南海」は、北京の中心部の故宮の西に隣接する角にある。その広さは、東京ドーム二十五個分、あるいは東京新大塚駅と有明駅を結ぶ有明線に相当する。しかし、「中南海」は、単なる場所を示すのではなく、権力の象徴としての政治用語となっている。本書は、地理・歴史・政治などの面から、中国の中核である「中南海」を詳しく紹介している。



地域教育 学部/研究科 1 年 1 冊目

ペンネーム: Angel エントリーNo.: C005



所蔵情報はこちら↓をご覧ください。



http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BB18457255

<p>世界は分けてもわからない 読書ラリー</p> 	<p>読書ラリー コメントカード</p> <p>書名: <u>世界はわけもわからない。</u></p> <p>資料ID: _____</p> <p>世界は美しい。なぜか、私には美しい。それは、世界は 分けもわかれもわからない。私たちが、世界の 生物の至るところにいて、分けるといふことは そのための手段である。世界は分けなければ わからない。しかし、分けもわかれもわからない ものはある。</p> <p>この世界のあらゆる要素は互いに連鎖し、すべてが つながりの関係でつながっている。つまり、世界に 別はない。動物や植物、それらが作り出すものは ない。そこには、輪廻転生も存在しない。</p> <p>私たちが世界を知るには分けが必要がある。そして 分けもわかれもわからない。世界は美しいのである。</p> <p>医 学部/研究科 _____ 年 _____ 3 冊目</p> <p>ペンネーム: <u>ちい</u> エントリーNo.: <u>008</u></p>		<p>読書ラリー コメントカード</p> <p>書名: <u>月の中へ天使</u></p> <p>資料ID: <u>491.371 Rom 0210/68308</u></p> <p>理科が好きで、医学部に入ったつもり、しかし 科学としての面白さには思っている人よりもはた たか、そんな人にするために、自分が脳の中の現象を 世界的神経科学者、リチャード・ドーキンスの『<u>幻肢</u>』を見た。 脳が生み出す不思議な現象と、脳神経のフ ロントロブが交差して、 高次認知機能は命に過剰な問題ではないため、 医学においては後回しにされてきた。脳科学は神経 学問、芸術から社会学、政治に至るまで、多岐に わたる。だが、多くの人にとっては、 脳の中で、リチャード・ドーキンスは神経科学という直感と武器の 上での疑問から、脳の機能と推測し、場合によっては すでに治療法に結実させている。この本を読めば、自分が 臨床医としての研究を深めたいという思いは、 これができるとは思っていないだろうか。</p> <p>医 学部/研究科 _____ 年 _____ / 冊目</p> <p>ペンネーム: <u>Yellow</u> エントリーNo.: <u>25</u></p>
---	--	---	---

所蔵情報はこちら↓をご覧ください。

	<p><a href="http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BA90727779">http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/ recordID/catalog.bib/BA90727779</a></p>		<p><a href="http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BB12094942">http://www.opac.lib.tottori.ac.jp/opc/ recordID/catalog.bib/BB12094942</a></p>
--	---	--	---

## 参加報告

平成 27 年度国立大学図書館協会中国四国地区協会助成事業  
ワークショップ「大学図書館で楽しく身につく使える英語

—多読・図書館留学・ライティングセンター—

山根 智子

3月2日、広島大学中央図書館でのワークショップ「大学図書館で楽しく身につく使える英語-多読・図書館留学・ライティングセンター-」に参加しました。

講演とワークショップ「図書館多読入門」では、多読による英語力アップのコツを伺い、実際に多読本を読みました。多読による語学力アップは、適切な書籍があれば英語以外の言語でも可能です。また、絵本を読むことでその言語の感覚をつかむことができること、多読三原則を踏まえてこそ多読は効果的、を話されました。

講演「神戸学院大学図書館『図書館留学』について」では、図書館での5年間の歩みの結果、多読・多聴・Talk・留学生との交流などインプットからアウトプットまで、語学学習の一連の流れを確立していった経緯を伺いました。その中で他部局や教員との連携もあり



ました。講師が本学地域学部卒の方だったことも特に書き添えておきます。

事例発表「広島大学ライティングセンターにおける英語文章ライティング支援について」では、TAによる日本語論文指導から始まったセンターが英語論文指導にもステップアップしたことが述べられました。毎年利用数が増え、教員による相談もあり、リピーターも多いそうです。

英語学習支援に向け、本学中央図書館でもコーナーは設置されていますので、更に活用していきたいと考えます。

(やまね ともこ：図書館情報課司書)

## 参加報告

図書館総合展 フォーラム

### 「機関リポジトリの近未来：オープンアクセスからオープンサイエンスへ」

中谷 昇

近年、これまでのオープンアクセスの概念を更に押し広げ、研究成果だけでなくそのプロセスや根拠となる研究データまでも Web 公開する「オープンサイエンス」の検討・推進の動きが始まりつつある。今回、参加した図書館総合展では、このオープンサイエンスと機関リポジトリをめぐる現状について扱ったフォーラムにて、講演を拝聴した。

オープンサイエンス実現のために必要な作業は、電子データとしての研究資料を収集・管理し、その形式や書誌情報を整理して再利用に供する、という、今まで図書館職員が行ってきた資料収集・目録作成などと、本質的には同じものである。フォーラムでは、だからこそ大学図書館がその役割の中心となることを期待されており、大学図書館全体として、あるいは一担当者として意識してほしい、と強調された。

授来のオープンアクセス推進においても、機関リポジトリ運営を主に担う大学図書館が、機関を超えた全国的なコミュニティを形成して活動を行ってきた。今回のオープンサイエンスについても、このような大学図書館固有の、かつ貴重な大学間連携の形を活かし、今後生じるであろう様々な課題に取り組んでいきたい。

(なかたに のぼる：図書館情報課司書)

## 鳥取大学鳥取市役所同窓会からの寄付金による購入図書

平成 23 年度より鳥取大学鳥取市役所同窓会から資料購入のためのご寄附をいただいております。平成 24 年度から 26 年度に購入しました図書を紹介します。配架場所は 1 階エレベータ前書架です。

この機会に是非ともご利用ください。(平成 23 年度購入リストは No.119 号に掲載済みです)

【新潮選書】

資本主義の「終わりの始まり」：ギリシャ、イタリアで起きていること / 藤原章生著	皮膚感覚と人間のこころ / 傳田光洋著
謎とき『悪霊』 / 亀山郁夫著	『帝都復興史』を読む / 松葉一清著
日露戦争、資金調達達の戦い：高橋是清と欧米バンカーたち / 板谷敏彦著	海図の世界史：「海上の道」が歴史を変えた / 宮崎正勝著
神を哲学した中世：ヨーロッパ精神の源流 / 八木雄二著	天皇とは何ものか：縄文から倭の五王まで / 上田正昭著
『古事記』は偽書か：継体朝から律令国家成立まで / 上田正昭著	西行と清盛：時代を拓いた二人 / 五味文彦著
蕩尽王、バリエをゆく：薩摩治郎八伝 / 鹿島茂著	説き語り日本書史 / 石川九楊著
科学嫌いが日本を滅ぼす：「ネイチャー」「サイエンス」に何を学ぶか / 竹内薫 [著]	昭和史を陰で動かした男：忘れられたアジテーター・五百木飄亭 / 松本健一著
鉄道復権：自動車社会からの「大逆流」 / 宇都宮浄人著	天下無敵のメディア人間：喧嘩ジャーナリスト・野依秀市 / 佐藤卓己著
知略と驕慢 / 森史朗著	運命の日 / 森史朗著
説き語り中国書史 / 石川九楊著	文明が衰亡するとき / 高坂正堯著
髑髏となってもかまわない / 山折哲雄著	日本はなぜ開戦に踏み切ったか：「両論併記」と「非決定」 / 森山優著
江戸の天才数学者：世界を驚かせた和算家たち / 鳴海風著	消えたヤルタ密約緊急電：情報士官・小野寺信の孤独な戦い / 岡部伸著
3・11 から考える「この国のかたち」：東北学を再建する / 赤坂憲雄著	アメリカン・コミュニティ：国家と個人が交差する場所 / 渡辺靖著
「便利」は人を不幸にする / 佐倉統著	ウェブ文明論 / 池田純一著
金融の世界史：パブルと戦争と株式市場 / 板谷敏彦著	私たちはなぜ税金を納めるのか：租税の経済思想史 / 諸富徹著
主戦か講和か：帝国陸軍の秘密終戦工作 / 山本智之著	炭素文明論：「元素の王者」が歴史を動かす / 佐藤健太郎著
江戸の色道：古川柳から覗く男色の世界 / 渡辺信一郎著	天皇と葬儀：日本人の死生観 / 井上亮著
明治神宮：「伝統」を創った大プロジェクト / 今泉宜子著	カネと文学：日本近代文学の経済史 / 山本芳明著
危機の女王エリザベス二世 / 黒岩徹著	座談の思想 / 鶴見太郎著
新・幸福論：「近現代」の次に来るもの / 内山節著	

【講談社選書メチエ】

フッサー『現象学の理念』 / 竹田青嗣著	「ひとりではいられない」症候群：愛と孤独と依存症をめぐるエッセイ / カトリーヌ・オディベール著；平野暁人訳
古代エジプト文明：世界史の源流 / 大城道則著	戦前昭和の国家構想 / 井上寿一著
「三国志」の政治と思想：史実の英雄たち / 渡邊義浩著	東シナ海文化圏：東の「地中海」の民俗世界 / 野村伸一著
ドイツ観念論：カント・フィヒテ・シェリング・ヘーゲル / 村岡晋一著	「イタリア」誕生の物語 / 藤澤房俊著
愛と欲望のナチズム / 田野大輔著	精神分析と自閉症：フロイトからヴァイトゲンシュタインへ / 竹中均著
会社を支配するのは誰か：日本の企業統治 / 吉村典久著	義経の冒険：英雄と異界をめぐる物語の文化史 / 金沢英之著
昭和のドラマトルギー：戦後期昭和の時代精神 / 許光俊著	ソシール超入門 / ポール・ブーイサク著；鷺尾翠訳
ピアニストのノート / ヴァレリー・アフアナシエフ著；大野英士訳	イスラムと近代化：共和国トルコの苦闘 / 新井政美編著
吉田神道の四百年：神と葵の近世史 / 井上智勝著	江戸幕府と国防 / 松尾晋一著
意味・真理・存在 / 八木沢敬著	穢れと神国の中世 / 片岡耕平著
卒業式の歴史学 / 有本真紀著	国家とインターネット / 和田伸一郎著
フィリピン BC 級戦犯裁判 / 永井均著	民俗と民藝 / 前田英樹著
弁証法とイロニー：戦前の日本哲学 / 菅原潤著	古代ギリシアの精神 / 田島正樹著

日独伊三国同盟の起源：イタリア・日本から見た枢軸外交 / 石田憲著	漢方医学 / 渡辺賢治著
人はなぜ傷つくのか：異形の自己と黒い聖痕 / 秋田巖著	朱子学 / 木下鉄矢著
戦国大名の「外交」 / 丸島和洋著	ブリティッシュ・ロック：思想・魂・哲学 / 林浩平著
桃源郷：中国の楽園思想 / 川合康三著	「福音書」解説：「復活」物語の言語学 / 溝田悟士著
文明と教養の「政治」：近代デモクラシー以前の政治思想 / 木村俊道著	伊勢神宮と三種の神器：古代日本の祭祀と天皇 / 新谷尚紀著
町村合併から生まれた日本近代：明治の経験 / 松沢裕作者	藤原道長「御堂関白記」を読む / 倉本一宏著
教会の怪物たち：ロマネスクの図像学 / 尾形希和子著	古代日本外交史：東部ユーラシアの視点から読み直す / 廣瀬憲雄著
満蒙：日露中の「最前線」 / 麻田雅文著	緑の党：運動・思想・政党の歴史 / 小野一著
本居宣長『古事記伝』を読む / 神野志隆光著	冷えと肩こり：身体感覚の考古学 / 白杉悦雄著
感情の政治学 / 吉田徹著	源実朝：「東国の王権」を夢見た将軍 / 坂井孝一著
教会領長崎：イエズス会と日本 / 安野眞幸著	魔女狩り：西欧の三つの近代化 / 黒川正剛著
人格系と発達系：「対話」の深層心理学 / 老松克博著	日本の戦争と宗教 1899-1945 / 小川原正道著
ベルクソン=時間と空間の哲学 / 中村昇著	クラシック魔の遊戯あるいは標題音楽の現象学 / 許光俊著
ティムール帝国 / 川口琢司著	見えない世界の物語：超越性とファンタジー / 大澤千恵子著
潜伏キリシタン：江戸時代の禁教政策と民衆 / 大橋幸泰著	神から可能世界へ / 八木沢敬著

## 2016 年電子ジャーナル・文献データベースについて

2016 年契約の電子ジャーナル・文献データベースは、大学予算の見直しのため、これまで購読していたもののうち、「Wily Online Library」と「American Physical Society (APS) Journals」を大学図書館として購読することを中止しました。

引き続き、これら雑誌の閲覧を希望される場合には、文献複写依頼や研究費による個別購読などの方法があります。

詳細は、以下をご覧ください。

<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/gakunai/EJ/2016wileyaps.html>

## トピックス

### 県立図書館との相互派遣研修を実施

平成 27 年度の鳥取県立図書館との相互職員派遣研修を、医学図書館で実施しました。

12 月 15 日～17 日の 3 日間、県立図書館職員を大学図書館で受け入れ、電子ジャーナル、データベースや ILL（相互貸借）などの業務を行いました。

また、11 月 15 日から 17 日には大学図書館から県立図書館へ職員を派遣しました。



## 高知県・高知市図書館職員の1日研修を実施

中央図書館では、県立図書館で3か月間研修されていた高知県・高知市図書館職員2名を、1日研修生として10月30日に受け入れました。

鳥取県における大学図書館と公共図書館の連携についての事例や附属図書館委員会の準備、陪席など、大学図書館の実情を研修していただきました。

## 神戸三宮で学生ブックハンティングを実施



中央図書館では、12月13日に神戸ジュンク堂書店三宮店でのブックハンティング(学生による店頭選書)を行いました。参加者も総勢21名の学生が参加し、239冊の図書を選書してきました。2階から5階までが本を扱う大型書店は県内にはなく、学生たちも満足した様子でした。

## 就活コーナー（中央図書館2階ホール）を設置

中央図書館2階ホールに就活コーナーを設置しました。キャリアセンターと協力し、学生のキャリア形成・就職活動等を支援するため、お互いの保持・管理している資料・情報が利用できます。

また、キャリアセンターに所蔵している図書資料もOPAC検索が可能となり、利用環境を整備いたしました。



## 第4閲覧室への電源コンセントの設置

中央図書館2階にある第4閲覧室に電源コンセントを60箇所、設置しました。閲覧室内では、読書や勉強、レポート作成など様々な利用者がいます。パソコンのタイピング音が、他の利用者の妨げにならないよう注意して、利用してください。

### 鳥取大学附属図書館報 第127号 (2016年4月)

〔編集・発行〕 鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail] [tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp) [ホームページ] <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

